

テ左記軍需品、集積ヲ實施セリ

之間ニ於ケル漁船ノ損害ハ三隻ナリ

ヨリ訓練ノ狀況

一 訓練日ヲ一週一日トシ九月ノ飛行場設定作業期ヲ除キ確
實施シ當時ニ於ケル陣地ノ狀態ニ應スル訓練ヲ行フ

ニ 地區隊長ヲシテ隨時檢閲ヲ實施セシメ集團長列席ス
三月下旬ヨリ四月上旬間陣地及訓練ニ關シ師團長檢閲ヲ
實施スリ六月ニ於テ畧ニ訓練ノ完成ヲ見ケルモ益々之カ精進
ニ邁進ス

三 訓練ノ重點

一 水際戦闘

二 對戰車戦闘

三 對迫撃戦闘

四 挺進斬込

(五) 戦闘ノ狀況

一 參加セシ主要ナル作戰(戦闘ノ概況)

一 台湾沖海空戰

航空部隊ノ陸軍飛行場ノ利用ニ密接ニ協同シ其ノ作戰

行動ヲ容易クシムル共ニ飛行場ノ防空ヲ強化シテ之ヲ掩護ス

ニ沖繩作戦

三月二十日以降六月下旬迄連日吾機乃至ニ敵機ノ攻撃ヲ受テ激烈^{（空襲）}對空戦闘及宮古島各飛行場ヲ基地トシテ特攻機ノ進發援助ヲ以テ密ニ沖繩作戦ニ呼應ス
特ニ飛行場ノ復舊作業ト特攻機進發掩護ノ爲真ニ危険ヲ冒シ犧牲ヲ忍ビ敢闘ス
戦死者實ニ數百ヲ算シタルヲ見テモ敵機ノ攻撃ハ如何ニ

熾烈ナシカラ察スルニ足ル

本隊^{（陸軍）}於テ第三軍^{（陸軍）}隷下部隊トシテ台湾軍司令官ヨリ惑狀ヲ授ケラル

ニ敵機動部隊ノ來襲狀況

一九四〇比島沖台湾沖海空戦ニ参加セルモト推定セラル、敵機動部隊ノ群ハ數日ニ亘リ沖繩本島東南方ヲ游ビシテ十月十日及十三日宮古島ニ對シ艦載機ヲ以テ初空襲

ニ、一比島作戦ノ陽動ト推定セラル機動部隊ニ群沖繩

本島東方海域ヲ游弋一月二日及九日宮古島空襲

二〇 二硫黃島方面參加機動部隊一隊 南西諸島東

方海域ヲ游弋二月二十日、三月一日宮古島空襲

二一 三沖繩作戰開始ト共ニ機動部隊一隊乃至二隊主トシテ

沖繩東南方及宮古石垣東方海上ヲ游弋三月二十日

以降宮古石垣ニ對シ艦載機ニ依リ連續空襲

四月上旬機動部隊交代セルモノ如シ

四三頃機動部隊更ニ交代セルモノ如シ

五二頃英國機動部隊一隊 台灣沖ヨリ北上米國機動部

五四

二〇五—二四五 Bx2 dx1 (英國機動部隊ノ如シ) 宮古

南方海上十五乃至二十ノ間ヨリ艦砲射撃(攻撃自

標主トシテ飛行場) 射撃三八五發(主トシテ主砲

五中旬 米國機動部隊ト交代セルモノ如シ

同 右機動部隊一乃至二隊 宮古東北四ノ乃至三五ノ

附近迄近接セルモノ如ク數回ニ互リ電探捕捉ス

六下旬 機動部隊一應歸投セルモノ如シ 來襲機ハ沖繩

本島ヨリ發進セルモノ如ク電探捕捉ス

三敵機來襲狀況

一九三〇 艦載機 一六機
 二〇三 同 三〇機
 二一三 同 二〇機
 二一八 同 一機
 二一九 艦載機 一二機
 二二六 同 六機
 二三一 同 五〇機

一月十日—三月下旬 同 連日小數機ヲ以テ哨戒偵察(基地比島方面ノ如シ)

三三三 艦載機 三〇機
 三五 同 八〇機 爾後六月二十七日—至八月五
 機乃至三〇機ヲ以テ連日來襲
 五月上旬末襲機、米英聯合ノ艦載機ナリ
 五月中旬—八月下旬間飛行艇小數機ヲ以テ連日哨戒偵
 察(基地沖繩)

七月上旬 以降艦載機來襲逐次閑散トシ一日平均一—三機
 七月廿日 沖繩本島ヨリ初メ陸上機ノ空襲アリ
 八月五日 艦載二六機ヲ以テ開機ノ空襲終ル

沖電作戰間天候其他依_レ來襲_レ日數四日間_レ
 戰闘機_レ攻撃目標_レ主_レ各飛行場暴露陣地一部平良
 町及部落等

九〇〇一ニ〇八二五間來襲延機數

戰闘_レ目的_レトセ_レモ、四四五機

哨戒偵察_レ目的_レトセ_レモ、大型機三機

飛行艇 六七機

四敵機ノ損害

宮古島

指 揮 下 部 隊											
陸軍第一師團通信隊八木隊	陸軍第四師團通信隊	陸軍第一師團通信隊	陸軍第一師團通信隊	陸軍第一師團通信隊	陸軍第一師團通信隊	陸軍第一師團通信隊	陸軍第一師團通信隊	陸軍第一師團通信隊	陸軍第一師團通信隊	陸軍第一師團通信隊	陸軍第一師團通信隊
球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球
五六五三	一九五九	七〇三〇	三三七六	六七七一	六四四六	八八八四	八八八四	五六一一	四一七三	一五三九	三三四五
402	98	165	7	23	180	24	235	175	34	120	55
23	3	16	2	22	2	1	1	1	1	1	1
355	27	139	19	144	19	14	160	30	108	53	53
1	2			2	209						
387	91	158	22	167	23	222	161	31	109	54	54

計五三五機

第二八師團										隸屬		
制毒訓練所	防疫給水部	師團通信隊	騎重兵第一聯隊	工兵第二八聯隊	山砲兵第一八聯隊	騎兵第二八聯隊	步兵第三〇聯隊	步兵第三聯隊	師團司令部	個部隊名	有	員
五六三四	一三〇九	五六五三	五六五六	五六四九	五六四七	五六四〇	五六三三	五六二〇	五六二二	字團兵	通稱號	
12	260	365	606	555	2586	530	3250	2945	385	員	或編入	
3	12	9	50	29	82	27	117	121	57	終戰時	於各人員	
1	31	72	117	118	404	107	530	627	113	兵	重屬計	
	174	362	442	354	1279	362	2281	1403	236	員	摘	
	10	14	17				17	21		員	要	
12	242	457	756	506	2385	496	2928	2662	429			

部隊及通稱號作戰地上陸人員終戰時各人員員表

別表第一

總合計	大東島合計	隊備守島東大										石垣島合計
		特設第五機關砲隊	特設第四機關砲隊	電信第三聯隊東邊隊	電信第三聯隊西邊隊	第三機務隊新豐隊	第一機務隊	特設射擊第二中隊	特設射擊第一大隊	大東島支隊	步兵第三聯隊	
				球	豐	〃	〃	〃	球	豐		
				八八三〇	五六七六		一三三三二	一四四五六	九七六〇	五六三九		
3654	4872	90	90	30	95	78	140	140	1016	3204	572	227
1503	165	1	1		11	2	5	2	28	115	252	112
524	262	11	9	4	16	13	16	20	143	520	39	75
2688	2788	72	74	24	63	60	118	109	826	2442	482	178
1023											239	212
3470	4705	84	84	28	90	75	139	131	997	3097	5412	212

別表第一

六六口三一團旅口六第城混之姓 口四九二

旅團砲兵隊	旅團工兵隊	旅團通信隊	旅團砲兵隊	旅團工兵隊	旅團通信隊	旅團砲兵隊	旅團工兵隊	旅團通信隊	旅團砲兵隊	旅團工兵隊	旅團通信隊	計	計	計
三九四八	三九四七	三九四六	三九四五	三九四四	三九四三	三九四二	三九四一	三九四〇	三九三九	三九三八	三九三七	三九三六	三九三五	三九三四
432	338	349	216	264	370	620	620	620	620	169	3579	215	275	
18	18	146	6	4	17	26	26	26	25	16	163	7	5	
71	68	686	32	27	77	126	132	127	125	40	578	24	24	
334	242	2497	155	221	263	639	428	448	443	101	2610	164	235	
423	328	3330	197	252	357	591	586	601	593	157	3357	195	254	

查

團旅九第城混之姓 四一六五

旅團砲兵隊	旅團工兵隊	旅團通信隊	旅團砲兵隊	旅團工兵隊	旅團通信隊	旅團砲兵隊	旅團工兵隊	旅團通信隊	計	計	計	計	計	計	計
三九四六	三九四四	三九四三	三九四二	三九四一	三九四〇	三九三九	三九三八	三九三七	三九三六	三九三五	三九三四	三九三三	三九三二	三九三一	三九三〇
320	620	620	620	620	169	1227	144	144	183	82	135	45	11		
23	21	20	27	27	17	567	4	4	22	10	11	6	1		
67	104	116	112	107	24	2326	23	7	37	14	20	8	8		
201	469	456	453	467	95	2532	105	117	120	59	49	17	2		
						129									
371	602	600	592	601	136	1155	132	129	179	23	130	31	11		

独277大隊は
 300
 は独278大隊
 301大隊
 の誤り
 277大隊は
 271大隊の誤り
 15高

一〇八八一團旅五四師成混之独

重砲兵第八聯隊	独立機甲隊第九大隊	計	旅團工兵隊	独立歩兵第三〇大隊	独立歩兵第九大隊	独立歩兵第九大隊	独立歩兵第九大隊	独立歩兵第九大隊	獨立歩兵第九大隊	旅團司令部	獨立歩兵第九大隊	計	獨立歩兵第九大隊
四一五四	三三三三		六四六五	六四六四	六四六三	六四六二	六四六一	六四七〇	六四七〇	一八〇一			
230	350	346	180	620	617	613	610	570	255	2594	669	11	23
17	19	140	4	20	24	23	22	22	25	1086	210		
	3	24	1	4	5	3	5	3	3	4503	913		
19	202	3100	167	589	520	549	553	515	194	1826	457		
		27							27	784	655		
212	324	229	167	613	549	575	598	540	249	2459	6356		

ナリキ

日常頻用薬物及特殊薬物(強心剂各種、局
 所麻酔剂、エネチン、ヤトレン類、ビタミンA、B、C剂、健
 胃剂、重曹剂、檢索用及防疫用材料、サルバルサ
 ン剂若干)ハ特ニ僅少ナリキ
 薬物ノ現地自活ハ進駐當初ヨリ意ヲ用ヒ現地
 物資ノ利用野生薬草ノ研究利用等銳意
 實施ヲ圖リ來リタルモ離島ノ限定セル資源、
 茲ニ利用スヘキ材料ノ貧弱ナル現況ニ於テハ特筆

スギ域ニ達スルヲ得カリキ ニニノ例ヲ舉クハ硫
ヲ輸血用拘椽酸ノ代用トシ 下劑ハ獸醫
部ヨリ保管轉換セル芒硝人エカルス食塩ヲ使用
シ葡萄酒糖代用トシテ現地産白糖ヲ以テ乾化糖
ヲ製造使用シ天丁タメ五% フォルマリン酒精^精ヲ使
用セシムル等之レナリ

又硫化カルシウム(現地砂糖漂白用)硫黄ヲ利用
ス 乾化糖液、生理食塩水、酒精、生消石灰
絹糸、海人草等ハ概テ需要量ヲ製表シ得タリ

(七) 終戦ヨリ歸還迄行動概要

八月

十五日 終戦ニ關シ集團ノ今後トルキ大綱ヲ示ス

十七日 戦闘行動即時停止ヲ命ス(台作命甲第三三號言)

直轄部隊長ヲ集合セシメ終戦及陸海軍人ニ賜リ

タル勅語並ニ陸軍大臣訓示ヲ傳達ス

二十日 長期駐留ヲ豫期シ駐留態勢整備要綱百

活ヲ主トスヲ決定シ之ヲ隸^{指揮}下ニ示ス

二十日 各地區隊ノ配屬部隊ヲ原所屬ニ復歸セシム

平言對敵任務ヲ以テ解除ス如ク令ス

三日 零時ヲ以テ鷲進飛大對空無線等ヲ指揮下ニ

入ル

五日 局地停戰交渉關海軍部隊ヲ指揮下ニ入ル

九月

三日 局地停戰協定ノ權限ヲ集團長ニ委任セル依

テ多賀少將以下ノ各委員ヲ命ス

五日 停戰協定打合ニ爲多賀少將以下ヲ沖繩ニ派遣ス

停戰協定委員ニ對シ米第十軍ヨリ武裝解除等

七日 集團長沖繩於テ米第十軍司令官ヲシテ皇山大

將ト正式降伏調印ヲ行フ

十日 米軍調査員初ニ來島宮古島利候所ニ宿泊ス

十日 大本營ノ解散言フ方面軍ノ戰闘序列ヲ解組シ臺

灣軍管區司令官(安藤大將)ノ隷下トナル

十日 海軍飛行場ニ米軍トノ連絡所ヲ設置ス

十日 米國第十軍南琉球特別作業隊到着ス長キ彦將

米軍トノ連絡所ヲ支廳ニ設ク

十日 宮古地區兵器奉還開始

主音教育企画ヲ依定ニ停戦後ノ教育關ニ指示ス
主音宮古島ノ兵器奉還一時終了ス

主音米軍「ギン」准將部隊ヲ逃閑ス

十月

五日石垣大東方面兵器奉還爲杉本參謀以下ヲ派遣ス

八日石垣方面兵器奉還終了ス

九日沈没船ノ破壊及第三埠頭修復ヲ實施ス

駐留及終戰處理關ニ團隊長會同ヲ實施ス

十曾大東方面兵器奉還終了ス

十月

三日式典舉行後相撲大會展覽會ヲ實施ス

八日復員輸送本格化ニ伴ヒ狩俣校橋ヲ構築ス

主音各地區隊内主要道路ノ補修ヲ實施ス

主音米軍宮古島ニ軍政ヲ敷

十月

一日復員後ノ指針ニ就テ大隊長集合教育ヲ實施ス

主音集團長約見敏郎中將腦溢血ニ依リ永眠ス

主音不許可將校米船ニヨリ出航ス

三晉大東地區ノ復員輸送ヲ終了ス
手年月

一日拜賀式ヲ舉行シ聖壽萬成ヲ三唱ス

新生日本ノ第二步ヲ踏出ス

昔石垣ノ復員輸送ヲ終了ス

三晉糧秣被服及國有財等ヲ米軍ニ引継完了ス

三晉師團司令部米船ウヰムカール號ニ乘船宮古島ヲ出發

六日司令部浦賀ニ上陸

三晉司令部師團長代理安藤將以下復員ニ第二十八師團
松ニ解散ス

主力上陸以來月別死亡者發生ノ狀況別紙第
一表ノ如シ

之石垣地區 進駐兵力僅少ナリシ爲衣食住共ニ

余祐多ク當初傷病發生狀況ハ比較的良好

ニシテ豫後又佳良ナルモノ多カリシモ六月以來作戦

ノ要求ニヨリ石垣島北部山嶽地帯陣地ニ移駐

スルニ及ビ軍民共ニ「マリア」ノ爆發性流行ヲ来セリ

之カ對策ノ爲終戦後 司令部部員及師團

防疫給水部一部ニ拂底セル衛生材料ノ中ヨリ

所要品ヲ携行セシメテ派遣石垣地區防疫指導
及之檢索治療等ニ努カセリ

八月三十一日現在ニ於ケル傷病者發生狀況左表
ノ如シ

區分	病名	新發數	マリア	急傷	急重	外傷	肺結核	其ノ他
入院		四〇九	三四一	一	二	一	二	六二
在隊		二一九	二二五	五	二	二	二	六六
合計		二六〇	二四六	六	四	三	四	一三八
金員對症		五〇九	四七三	〇二一	〇〇九	〇〇五	〇〇九	

大東地區 各島共ニ衛生施設比較的完備シ

「マリア」及其他風土病地方病共ニ極メテ少ク
衛生環境整備セラレアリテ石垣地區ニ比シ更ニ
衣食住ニ餘裕アリ地方民一部疎開引揚ヲ實
施セリ且計畫的補給ヲ完全ニ受ケ得タリ等
ノ原因ニヨリ傷病者發生ノ狀況及之等ノ豫
後等ハ集團中最モ良好ナリ

九月ニ於ケル傷病者ノ發生狀況左表ノ如シ

區分	新發數	マリア	結核	脚氣	感冒	外傷	皮膚病	腸胃	其他	死亡
----	-----	-----	----	----	----	----	-----	----	----	----

三 地方衛生狀況

一般ニ各島共住民ノ衛生思想極メテ幼稚 於ツテ
個人公衆衛生諸施設極メテ不備不全ニナリシ
ヲ以テ傳染病、皮膚病、眼病等多シ

地方醫師會及各島共ニ第一項記載ノ醫師
有リタルモ個人醫院ヲ開設收療ニ從事シアル程

計	北大東	南大東
一九〇	四九	一四一
二八		二八
六		六
一〇	二	八
三七	二	三二
一六	一	五
二二	九	一四
一九	一	八
五一	一	四〇
四		四

度ニシテ積極的衛生思想ノ向上、衛生施設改
善等努力スルコトナシ 又宮古島、石垣島共ニ
夫々内務省ノ「マリア」防遏所存在シ宮古島
ハ縣防疫醫一、石垣島ハ「マリア」防遏醫一ア
リテ夫々數名ノ所員ヲ擁シアルモ單ニ「マリア」患
者ニ投藥スルノミニシテ防瘧工作ハ殆ント實施
シアルカシ狀況ナリ 且軍隊進駐前數年間ハ
前記投藥スラ豫算ノタメ所要量(患者對
スル)數十分ノ一ナリキ

高進駐當時ハ宮古石垣及之等附近小島ニ普
ク癩患者分散シアリタルヲ以テ計畫的一齋ニ
之ヲ探出宮古島北端癩患療養所(南靜園)
ニ強制收容スル 但空齋ニヨリ病舎ノ過半燒失
ニヨリ一部逃亡セルヲ以テ終戦後強制收容ニ
努メタリ

之ヲ要スルニ各島住民ハ老若男女ヲ通シ衛生
思想眞ニ幼稚ニシテ此カモ意識セズシテ汚穢
非衛生環境中ニ生活シアリ之カ指導ハ將來ニ重

大ナル問題ナリ

四部隊宿營ノ狀況

終戦後各隊共ニ地上生活ニ移行ス

但シ極メテ簡易ナル野戰式急造「バラック」ナリ
洞窟生活ニ良好ナリシモ
越冬ノ為ニ甚ク困難ヲ感シタリ

五給養實施ノ現況及將來

前各項記載ノ如ク 現在宮古島石垣島共ニ給
養全般 將來ハ誠ニ寒心ニ堪ヘサルモアリタリ
將兵一般ノ榮養狀況ハ八月ニ於テ最モ不良ニシテ

疾病ノ發生予後ノ不良栄養失調等ニ基因
スル損耗大ナルモアリ

三月以降ハ後方ヨリノ補給ハ僅カニ集名集團ハ
自力ニヨル按進海上輸送ニヨリ中湾ヨリ中津浦
水艦攻撃ヲ受ケシ數噸程度ノ小型船舶ヲ
以テ主米(玄米)ヲ輸送シ全般ニ玄米保有量
三ヶ月程度ニ保持セリ

各部隊ハ終戦後全カヲ舉ケテ自活ニ邁進利
用シ得(ギ荒地ハ急ク之ヲ開墾墾甘薯畑トシ

豚山羊ノ増産ニ努メ漁撈ニ徹底スル等夜ヲ

日ニ継キテノ活動モ氣候不順ト九月初旬以來
ノ引續ケル颶風ノ被害僅少ナラス且

兵器奉還作業「マリア」患者ノ多發農具漁具
ノ拂底等諸種悪條件累積シ上月ヨリ主食

甘サ諸一船給養ヲ辛クシテ實施スル
終戦當時各部隊ノ給養カローリハ概ネニココロ

リニ達セルモ各業養ノ配當比等顧慮シ得ザルト
各種ビタミンノ補給量僅少ナリシ為眞憂慮

ニ堪ヘサルモノアリタリ

一、^{行年}六月至近時期ニ決戦ヲ予期シ十一月全員ニ

對シ動物性蛋白質及脂肪給與ノタメ連續一

人一日六。瓦ノ馬、豚肉給與ヲ實施シ大イニ兵員

ノ体力氣力ノ増進ヲ見セシメタルニト^{アリコウ}得タリ

終戦後各種戰用糧秣ヲ使用シ得ルニ至リタ

ルト對敵顧慮ナク澳^イ粉ニ從事シ得ル等

自若モ逐次改善シ來リタルタメ終戦直後ニ

於テハ平均主食米四五。瓦甘薯五。一。一。一。瓦

副食トシテ四。一。六。瓦ノ各種罐詰干野菜及野

草、甘薯、菜魚類等ヲ相當量給シ得テ好條

件ヲ以テ平均ニ五。一。一。二。六。一。一。一。程度ノ給養

ヲ續行シ得タリ

六防疫茲ニ給水ノ狀況

各島共ニ衛生思想幼稚且衛生環境極メテ不

備ナルニ關ハラス至嚴ナル防疫軍紀確行ニヨリ

各種急性傳染病ノ爆發性流行ヲ見サリシ

ト雖モ腸管系急性傳染病殊ニ細菌性赤痢

賜チフス、バラチフス、ノ散發アリ

給養素悪、衛生材料不足、施設ノ不備等
ト相俟チ死亡者ノ多發原因トナリタルハ遺憾ノ

極ナリ

然レトモ各種悪環境ヲ克服シ各部隊長以
下防疫ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ防疫軍紀徹底
ニ努カセリ

三月以降大東地區、南大東島ニ於テA型上ハラ
チフスノ比較的多發ヲ見タルモ六月ニ殆ント

終熄シアリ

復員輸送、際チ乗船前檢痕輸送間

船内防疫ニ關シテハ一層防疫軍紀ヲ振作シ

乗船前全員ノ檢便身体被服裝具ノ完全
消毒、船内殊ニ厠調理場、衛生管理汚染

防止ニ意ヲ致シ不慮ノ傳染病流行防止ニ遺

憾ナキヲ期シタリ

結島給水ハ對空戰鬥洞窟棲息時期ハ那所
困窮ヲ極メ之カ給水對策ニ腐心セルモ防疫給

水部及作井隊ノ活動ニヨリ需水量ニ概ネ支障
ヲ來サザリキ 水質ハ相當度ノ硬水及塩分多
キモノヲ認メタルモ 飲用ニ支障ナシ

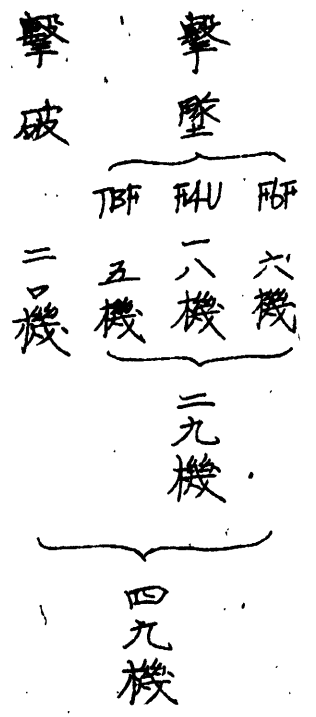
七 防瘧ノ狀況

宮古島石垣島ニ於テハ防瘧ハ集團進駐以來衛生
機關活動ノ最重点トシテ軍ハモトヨリ地方住民ニ
至レ迄防瘧軍紀ヲ嚴正ニ履行スル傍ヲ治水
排水等環境整理ニ腐心又散テ所ニ散在スル
天水及湧水利用ノ小規模水田等ハ「アノ左」培スル

池タリシヲ以テ沖繩軍及縣當局ノ諒解ノ下
ニ米作ヲ禁止シ且昭和十九年末台灣熱研
宮原大森西教授ノ派遣ヲ受ケ「マリア」及「
リア」蚊ニ防瘧諸對策等ニ就キ徹底セル教育
ヲ實施スル等全カヲ集中西島ノ「マリア」ノ拔本的
根絶ニ邁進シテ而シテ檢索用治療用諸衛生
材料ハ常ニ入手確保ニ多大ノ困難ヲ來シタルモ總
ニル創意工夫ヲ凝シ概ネ支障ナカリキ
八 衛生材料ノ狀況

前各項記載ノ如ク衛生材料ニ於テモ未ダ集積
 確保ニ至ラサルニ輸送杜絶シ保有材料ハ極メテ
 僅少ニシテ日常ノ診療ニモ支障ヲ來シアリ且
 狀況ナリシヲ以テ重臭使用ノ徹底現地自活ノ
 擴充等ニ努メタリ

終戦後ハ作戦用トシテ愛護温存シアリシ材料
 ノ繰替ヘ使用及貨物支廠保有材料ノ大部ヲ
 各患者收療機關迄ニ部隊ニ補給シ稍々愁
 眉ヲ関キタルモ尚極度ノ緊縮節用ヲ要スル状態



石垣島

擊墜破 四四機

五落下不時著降下者ニ對スル處置

ハ十月十三日艦載機一機宮古島南海岸不時著降虜
 一名捕獲後憲兵隊收容所要調査ハ十月十九日輸送

機ヲ沖繩第三十二軍司令部ニ送付ス

二月九日艦載機一機宮古島西海岸ニ不時著陸一名捕獲後憲兵隊ニ收容所要調査ノ上二月十五日輸送機

ヲ沖繩第三十二軍司令部ニ送付ス

三月二十九日艦爆一機一名ノ落下傘降下捕獲後憲兵隊

ニ收容七月十日輸送機ヲ台湾軍司令部ニ送付ノ為

搭乘スモ離陸ト同時ニ機関故障ノ為墜落操縦手

以下九名ト共ニ惨死依ツテ遺骨七月二十五日船便ニテ台湾

軍司令部ニ送付ス

五月十八日艦載機一機宮古島西海岸ニ墜落俘虜一名落

下傘降下海軍警備隊ニ捕獲五月十九日高嶺^{準備}參謀塔

來シ海軍輸送機ニテ台湾軍ニ送付ス

六敵俘虜數

四名 内譯 二名沖繩第三十二軍司令部ニ送付

一名遺骨ノミ台湾軍司令部ニ送付

一名台湾軍司令部ニ送付

ハ給養衛生

ハ糧食

昭和十九年七月進駐頭初給養標準分量ヲ別表第六如
之定々主食玄米六〇〇瓦ニ對シ甘藷二〇〇瓦ヲ以テ其不足分ヲ
補充スル外耐久性食品(罐詰肉粉味噌粉醬油乾物類)
ハ專ラ作戰準備用トシテ控置シ使用ヲ嚴禁セリ 而シテ昭
和十九年九月ニ於テハ輸送間ノ體力消耗回復ト急速ニ飛
行場設定作業陣地構築作業ノ體力保持ノ爲島内ニ
於テハ畜牛ヲ屠殺スル一方鱈漁季ノ終末期ヲ利シテ蛋
白給養ニ努力シ精肉一人一日ニ〇瓦魚肉六〇瓦ノ給養量
ヲ確保シ野菜ノ給養モ概ネ満足スルニテハ狀況ニテアリ

然ルニ逐次調味品ノ不足ト獸肉資源ノ缺乏(牛ハ全ク缺乏ニ
豚ハ專ラ増殖用トシテ屠殺ヲ禁止ス冬ニ香港獲量ノ教
減ニ依リ蛋白給養量ハ栄養保持上放任シ得サル狀況ニ
到リタルヲ以テ向寒期十二月ヨリ翌三月ニ至ル間罐詰肉二〇乃至
一五瓦ノ給養ヲ實施セリ

一方主食完全自活計畫ハ昭和二十年一月其緒ニ着キ先
モ昭和二十年五月ニ至リ專ラ自隊玄米保有量ト甘藷生
産量(自隊自活及供出ヲ含ム)トヲ以テ自主的ニ給養ヲ
律セシムル事トシ其ノ基準分量ヲ一人一日米六三〇瓦又ハ廿

諸三吾口瓦トシ逐次芋食ニ轉移シ遂ニ完全芋食ヲ以テ
給養セシムル事ト爲セリ此ノ時主食玄米約一ヶ月分六三〇
瓦ヲ貨物廠ニ主食罐詰肉約二ヶ月分(五三瓦)ヲ各部
隊ニ夫々依戰準備糧秣トシテ保有シアリタリ

然レトモ空襲ニ依ル自活作業ノ困難ニ基因スル植付時
期ノ遅延ト夏期ニ於ケル甘藷生産ノ端境期トノ影響セ
ラレタレ八月ヲ以テ給養ノ最低期ヲ示セリ

因ニ給養分量ハ別紙第七ノ如シ

(四) 收容施設

進駐頭初急速ナル飛行場設定陣地構築等ニ全カヲ傾
注シ昭和十九年中ハ飛行戰隊並病院施設ヲ實施セルニ
ニシテ一般部隊收容施設ハ昭和二十年二月以降着手シ
現地材料松丸太茅等ノ使用ヲ努ムル共ニ方疎開民ノ
家々屋解體材料約一萬坪分ヲ活用シ對空偽騙ヲ事
セシ柱建屋根方形ノ小型野戰建築トシ敵戰當時約ハ
割五分程度ヲ概成シアリタリ

(五) 被服

被服ハ概シ進駐時儘ニシテ各兵夏衣袴一褌袴袴下

ニ毛布ニ蚊帳ニ六程度ニテ裝備充分ニテ防寒防蚊
 夫ニ衛生上満足ヲ期シ難キ状態ニアリタルモ補給亦禱祥
 袴下毛布補修材料極ニ部ニシナリ

所需品

僅少ナル日用品塵紙事務用品殺蟲劑煙火用品等
 若干補給ヲ受ケタルニナリ

B 衛生

地方	衛	生	機	閑
	第五師團軍醫部	第一野病 第二野病 第二半部	第四野病	官古島陸軍病院
	石垣島	船浮陸軍病院		
	大東島	第五師團第二野病 第二半部		
五五五〇	一六〇〇			二二三〇

人	口	地	方	醫	療	機	關
戰前	七〇〇〇	軍醫トシテ三	疎	閑	一	一	一
戰前	二〇〇〇	軍醫トシテ一	西	表	一	一	一
戰前	九	與那國	一	一	一	一	一
戰前	二						

右ノ如ク從來衛生施設極メテ不備衛生思想依劣ニシテ且熱帶特有ノ極メテ簡素ナル島民ノ衣食住ニ辛ウシテ需要ヲ充タシ來リタリ各島ニ時ニ軍ノ進駐ヲ見而カモ上陸直後ヨリノ

作戰任務ノ遂行ハ軍ノ衣食住共ニ極メテ粗悪ナラシメ石垣、宮古兩島ハ更ニ悪性マラリア「デング熱」等アリ 加之當時沖繩第三十二軍ノ補給方針トシテ大東島地區ヲ第一トセル爲先島諸島ノ補給ハ沖繩作戰ノ開始ト共ニ補給絶エ遂ニ一部ヲ實施セルノミナリシヲ以テ衛生機關ノ活動ヲ著シク制約シ爲ニ集團人的戦力ヲ維持ニ重大ナル支障ヲ來タセリ

而シテ糧秣ハ當初ヨリ不足ノ状態ナリシヲ以テ

二十六年六七八月頃ノ米々甘藷ノ收穫十分ナリ
ル時機ニ於テハ自活ニ熱心ナリシ某々隊ノ如キハ
殆トト全員榮養失調狀況ヲ呈シ羸瘦顔色
蒼白毛髮脱落等ノ症ヲ發生セルモ對策ニ
術ナキ狀況ヲ呈セリ

細部狀況次掲各項ノ如シ
一各衛生機關ノ概況

集團主力各島ニ上陸以來各患者收療機關
ハ夫々各種學校校舍ヲ利用施設ヲ整備シ

患者ノ收療ニ遺憾ナカラシムト共ニ洞窟收療
施設ニ着手シ銳意強行セリ

然レテ沖繩作戰開始ト共ニ敵ノ空中攻撃激
化セル爲ニ逐次洞窟病院ニ移轉傷病者收療
ニ萬全ヲ期セリ

終戦時ニ於テハ洞窟附近ニ野戦建築ヲ以テ病室
ヲ構築收療セルモ板敷ノ不足ハ收療機關ノ構
築ニ著シク支障ヲ来シ收容カラ著減セシメタリ
ニ傷病者發生ノ狀況

宮古島地区ハ軍民共ニ人口密度最モ稠密ナル
タメ衣食住共ニ^{著シク}制肘ヲ受ケタリ 而シテ疫
未防瘧諸対策ノ見ルヘキモノナカリシヲ以テ住
民ニ普ク「マリア」ヲ浸透シアリシヲ以テ 作戰上
ノ要求ハ至嚴ナル防瘧軍紀豫防内服、確行ニ
拘ハラス「マリア」患者ノ多發ヲ見ルニ至リ 且衣
食住殊ニ糧秣ノ著シキ制約防禦戰闘準
備ノ多ク過勞累積シ患者ノ豫後ヲ著シク不
ナラシメタリ

